

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02457

研究課題名(和文) 吉井勇の「戦中疎開日記」に基づく後期歌集並びに京都文化人グループについての研究

研究課題名(英文) Study on diaries during World War II by Isamu Yoshii: Two Tanka Anthologies in the Latter Half of his Life and the Group of Intellectuals in Kyoto

研究代表者

細川 光洋 (HOSOKAWA, Mitsuhiro)

静岡県立大学・国際関係学研究所・教授

研究者番号：60442480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：吉井勇の戦時下の京都での日記「洛東日録」、富山八尾での疎開日記「北陸日記」「續北陸日記」の翻刻をもとに、後期の起点となる歌集『寒行』『流離抄』に収められた歌の成立背景を明らかにした。また、あわせて当時の書簡や新聞・雑誌の調査を行い、谷崎潤一郎や川田順らとの紙面・誌面を通じた「消息歌」のやりとりを日記と照合させながら跡づけた。不遇を託ったとされる八尾疎開について、その各地を転々とした時期や八尾の人々との交流の実態を、初めて資料に基づくかたちで明らかにすることができた。その過程で、おわらを代表する民謡詩人・小谷契月についての資料についても発掘紹介することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

吉井勇の戦中疎開日記の翻刻を通じ、これまで本人も多くを語ることのなかった疎開時代の生活や地域の人々との交流を初めて明らかにすることができたのが一番の成果である。京都東山馬町空襲や富山大空襲の記述は、歴史的な価値のある証言として新聞等でも大きく取り上げられた。疎開日記は、今後地域の戦時史としても価値を持つであろう。また、戦後初の歌集である『金泥』が終戦を機に発刊が見送られた「決戦歌集」叢書の『神杉』をもとに編まれたことを明らかにした意義も大きい。富山では、吉井の日記をもとに『北日本新聞』紙上で16回の連載を行い、文学館での展示や3回の講演会も開催し、研究成果を地域に還元することができた。

研究成果の概要(英文)：Based on the reprints of Isamu Yoshii's diaries, "Rakuto Nichiroku" in wartime Kyoto and "Hokuriku Nikki" and "Zoku Hokuriku Nikki" in Yatsuo where he evacuated during the war, I clarified the background of his tanka anthologies Kangyo and Ryurisho as a starting point of his later work. In addition, I examined letters between Yoshii and Jun-ichiro Tanizaki or Jun Kawada. They asked about and heard from each other in a form of tanka which appeared in newspapers and periodicals at the time. I checked these letters by consulting his diaries, and compiled their correspondence. It has been accepted that he lamented the misfortune when he moved to Yatsuo and wandered around, but I revealed the fact of his living closely to local people for the first time based on the evidence of several documents.

研究分野：日本近代文学

キーワード：吉井勇 近代短歌 戦中疎開日記 戦時資料 小谷契月

## 1. 研究開始当初の背景

『和歌文学大系29 桐の花 / 酒ほがひ』(1998)の解説において、鷺只雄は「吉井勇の伝記と作品の実証的な調査については残念ながら現在までのところ信頼すべきものがない」と記している。今日においても、年譜的な事項を含めて、吉井勇の基礎的な研究は同時代の北原白秋や石川啄木と比べてもきわめて遅れているのが現状である。

なかでも、戦争末期の富山八尾への疎開時代(1945)については、勇自身が多くを語ろうとしなかったこともあり、わずか8ヶ月の間に4ヶ所を転々とした経緯やそれぞれの滞在期間も不明で、実証的な研究といえるものは皆無であった。この疎開期間に、後期を代表する歌集『寒行』『流離抄』の歌の多くが詠まれている。『寒行』『流離抄』を経て戦後の『残夢』にいたる後期歌集の成立背景を明らかにすることは、明治・大正・昭和と三代を生き抜いた歌人・吉井勇の全体像を知る上でも不可欠である。

京都府立京都学・歴史館には、吉井勇の戦中疎開時代の日記が所蔵されていた。それまで日記は非公開であったが、同館並びに吉井家のご理解を得て、これらの日記を翻刻する許諾を得ることができた。吉井勇自身の戦時下の日記の翻刻と、越中八尾での実際のフィールドワーク調査を併行して行うことで、疎開時代の動向を明らかにすることができると考え、研究に着手した。疎開日記には新村出・川田順や谷崎潤一郎などをはじめとする京都の文人たちとの書簡のやりとりも記録されており、この時期の吉井の短歌を特徴づける「消息歌」を読み解く手がかりも得られると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、歌人・吉井勇の戦中戦後の日記や書簡資料の翻刻・調査をもとに、後期歌集『流離抄』『寒行』『残夢』の成立背景を考察し、併せて新村出・川田順・谷崎潤一郎らを中心とした戦中戦後の京都文化人たちの交友について、その実態と文化史的な意義を明らかにすることを目的として行った。

- (1) 戦中戦後日記や書簡の翻刻・調査をもとに、不明な点の多い昭和期の年譜的空白を補完することで、後期を代表する三歌集の成立過程を実証的に明らかにし、吉井勇の後期作品の再評価を行う。
- (2) 吉井勇・新村出・川田順を中心とする戦中戦後期の京都文化人たちの交友圏について、日記の記述や往復書簡、互いの「消息歌」のやりとりをもとに調査し、同人誌「乗合船」の成立事情やその文化史的な意義を明らかにする。

## 3. 研究の方法

以下の(1)～(3)のように、研究を進めた。

- (1) 吉井勇の戦中疎開日記の翻刻本文を作成する。  
研究の基礎となるものとして、京都学・歴史館に所蔵されている吉井勇の戦中日記「洛東日録」(1944-45)、疎開日記「北陸日記」「續北陸日記」(1945)の三部、並びに戦後日記「宝青庵日記 第一巻」(1945-46)の翻刻を作成する。
- (2) 翻刻本文をもとにした実地調査を行い、校注を作成する。  
疎開先である富山八尾に赴き、現地の八尾おわら資料館や交流のあった林秋路・小谷契月のご遺族のもとに残された資料調査を行う。これにより、地名・人名を明らかにし、日記並びに書簡に校注を附す。

- (3) 京都の文人たちと交わされた書簡を翻刻し、雑誌・新聞に発表された「消息歌」との関連を明らかにする。

特に湯川秀樹・新村出・川田順・谷崎潤一郎との書簡については、「往復書簡」として読むことができるように調査・翻刻する。

#### 4. 研究成果

本研究により、以下のような成果を得ている。得られた成果や新しい知見については、地元紙や講演を通じて地域に還元するよう努めた。

- (1) 吉井勇の越中八尾での疎開時代の足跡を明らかにすることができた

疎開日記「北陸日記」「續北陸日記」の翻刻により、詳細が分かっていなかった八尾での仮寓先並びにその滞在期間を明らかにすることができた。また移転経緯についても、明らかになった。これらが判明したことは、基礎研究として、今後の吉井勇の研究に資するところが大きいと考えられる。また、吉井勇は戦後の『私の履歴書』において「疎開して行った先の越中八尾も、また安住の地ではなかった」「春になると、人情の酷薄に悩まされなければならなかった」と語っており、勇の顕彰ならびに疎開時代の検証が十分に進まなかった理由もこうした発言にあったとされるが、日記によりその発言の意図や事情が明らかとなったことは大きい。仮寓先と期間は以下の通りである。

##### 【吉井勇 八尾仮寓先並びに期間一覧】

宮田旅館 昭和20.2.10～3.10

常松寺 昭和20.3.10～5.31

小谷契月居 昭和20.5.31～8.22 富山大空襲・終戦

宮田旅館 昭和20.8.22～9.18(上洛9.18～9.24)

宮田旅館 昭和20.9.24～10.5 八尾を去る

- (2) 吉井勇の疎開時代を支えた八尾「甚六会」メンバーとの交流の詳細が明らかになった / 富山大空襲や終戦の日の記述が見つかった

当初予想していた以上に大きな成果を得たのは、疎開日記の地域の戦時史・文化史としての側面である。勇夫妻を八尾に迎え入れたのは、越中おわら節の近代化をすすめた八尾の文化人グループ「甚六会」のメンバー達 川崎順二・小谷契月・林秋路らであり、彼らとの交流の様がいきいきと日記には書き残されていた。またその交遊をもとに『寒行』『流離抄』の多くの歌が詠まれていることもわかった。

なかでも1945年8月1日の「富山大空襲」の鬼気迫る記述は富山の戦時史にとって貴重な記録(証言)とされ、地元紙『北日本新聞』2018年8月1日の一面トップで大きく報じられた。これを機に同月9日から2019年3月28日まで、同紙に「吉井勇と高志びとたち - 戦中日記より」全16回(月2回掲載)を連載した。これは翁久允・川崎順二・小谷契月居・林秋路らとの疎開時代の交遊を日記の記述や短歌を交えて記したものである。この連載に関連して、地元への成果報告を兼ねて富山で講演を行った。

2018年11月24日 特別講演会「吉井勇と高志びとたち」(八尾コミュニティセンター)

2019年12月 1日 文学講座「吉井勇と高志びとたち - 疎開日記をもとに」(高志の国文学館)

関係者への調査を行う中で、吉井勇に関連する新しい資料も多く発見された。翁久允旧蔵資料から新たに見つかった吉井勇の歌稿・書簡をもとに、高志の国文学館では特別展示「翁久允と吉井勇・川田順 富山を訪れた歌人たち」(2020.6～2021.6)が行われた。ま

た、勇の仮寓先である民謡詩人・小谷契月のご遺族のもとからは、契月のおわら資料や草稿、当時の貴重な同人誌などが見付き、これをもとに『小谷契月作品集』(2021、桂書房)を編集・刊行した。作品集の刊行と没後50年を記念して、地元の方々の協力を得て、ご遺族とともに小谷契月・川崎順二を語る講演会を開催した。

2021年11月 6日 没後50年記念講演会「小谷契月・川崎順二を語る」(八尾コミュニティーセンター)

- (3) 八尾疎開のきっかけとなった東山馬町空襲の記述の発見 / 幻の決戦歌集『神杉』の発見

戦時下京都での日記「洛東日録」から、吉井勇夫妻の八尾への疎開の直接の契機となったのが、1945年1月16日夜半の「東山馬町空襲」であることがわかった。文学者による馬町空襲の貴重な記録として、『京都新聞』2018年3月30日に「吉井勇日記に馬町空襲」と題し紹介された。また、「續北陸日記」の記述から、戦争末期に刊行を予定していた幻の決戦歌集『神杉』の存在が明らかになり、京都学・歴彩館に原稿の所蔵が確認された。「吉井勇の幻の原稿発見」と題し、共同通信社の配信記事として『静岡新聞』2020年1月27日をはじめ、多くの新聞で掲載された。

- (4) 谷崎潤一郎ら京都文化人たちとの「歌消息」(歌のやりとり)や戦時中の書簡を往復書簡として公開

全集に未収録である戦時下の谷崎潤一郎の吉井勇宛書簡(京都学・歴彩館所蔵)と、中央公論社から委託された吉井勇の谷崎宛書簡の翻刻を行い、「往復書簡」として読めるようにした。同往復書簡は谷崎潤一郎『疎開日記』(2022、中公文庫)に収載。「京都新聞」に掲載された川田順との歌のやりとりも、日記の記述から明らかになった。

- (5) 評伝研究『吉井勇の旅靴』を刊行。疎開前後の空白時期を埋めることで、従来の年譜を刷新する形で単行本をまとめ上げることができた

評伝研究として単行本『吉井勇の旅靴 昭和初年の歌行脚ノート』(2021、短歌研究社)を刊行。従来の木俣修による『吉井勇研究』(1978)では詳細が不明であった歌行脚時代と疎開時代という年譜的空白を埋めて新たな年譜を作成した。なお、同書により、第20回前川佐美雄賞を受賞している。

以上、主な成果を5点挙げたが、研究の最終年度となる2020年以降、コロナ禍の影響により現地に赴いての資料調査が困難となったため、京都の文人たちとのネットワークについて十分に深めることができなかつた点は悔やまれる。特に、令和4年2月19日(土)に京都府立京都学・歴彩館の1F大ホールで開催を予定した講演会「京都学・歴彩館の2つの文学資料 与謝野鉄幹・晶子、吉井勇とその時代」は、本研究の成果をもとにした同館での企画展と連動したものであったが、コロナ蔓延のために開催が中止となった。同会では、「人生の残夢春秋 日記から見る吉井勇と京都」の題で成果発表を兼ねた講演を行う予定であった。上記の成果のうち(4)については、継続して研究の成果を公開していきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 細川光洋	4. 巻 第79巻第2号
2. 論文標題 吉井勇「ゴンドラの唄」初出の発見—百年越しの謎を解く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 短歌研究	6. 最初と最後の頁 70-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 細川光洋	4. 巻 第19巻第1号
2. 論文標題 吉井勇の戦中日記 「洛東日録」抄	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際関係・比較文化研究』（静岡県立大学）	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 細川光洋	4. 巻 第67巻第5号
2. 論文標題 北原白秋、吉井勇 歌つくりと歌よみと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 角川『短歌』	6. 最初と最後の頁 120-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 細川光洋	4. 巻 第39号
2. 論文標題 小谷契月と吉井勇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 とやま文学	6. 最初と最後の頁 192-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細川光洋	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 吉井勇の戦中疎開日記(下) 「續北陸日記」抄2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「国際関係・比較文化研究」静岡県立大学国際関係学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細川光洋	4. 巻 33(7)
2. 論文標題 極道に生れて河豚のうまさかな 健啖家・吉井勇	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歌壇	6. 最初と最後の頁 104-109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細川光洋	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 吉井勇の戦中疎開日記(中) 「續北陸日記」抄1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「国際関係・比較文化研究」静岡県立大学国際関係学部紀要	6. 最初と最後の頁 47-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細川光洋	4. 巻 第16巻
2. 論文標題 吉井勇の戦中疎開日記(上) 「北陸日記」抄	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「国際関係・比較文化研究」静岡県立大学国際関係学部紀要	6. 最初と最後の頁 23~39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 細川光洋
2. 発表標題 吉井勇と森鷗外訳『即興詩人』
3. 学会等名 明星研究会 第15回明星研究会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細川光洋
2. 発表標題 啄木を詠む吉井勇－「洪民村訪問記」をめぐる－
3. 学会等名 国際啄木学会 春のセミナー
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 細川光洋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 短歌研究社	5. 総ページ数 428
3. 書名 吉井勇の旅靴－昭和初年の歌行脚ノート	

1. 著者名 (編) 細川光洋、小松朗 (監修) 小谷剣司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桂書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 小谷契月作品集	

1. 著者名 谷崎 潤一郎 (註/書簡翻刻) 細川光洋 (解説) 千葉俊二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 384
3. 書名 疎開日記	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>京の記憶アーカイブ「吉井勇日記にみる馬町空襲」  <a href="http://www.archives.kyoto.jp">http://www.archives.kyoto.jp</a></p>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------